

長岡開府400年 記念事業の概要



■ キャッチフレーズ

次の百年へ 新しい米百俵

■ 基本方針

郷土長岡の歴史や文化、まちづくりの精神を、
次なる100年のまちづくり、ひとづくりに活かす

■ 記念事業の目的

長岡市は、平成30(2018)年に、初代長岡藩主・牧野忠成^{ただなり}が長岡城主になった元和4(1618)年の開府から、ちょうど400年という歴史的な節目を迎えました。

長岡開府400年記念事業では、まちの歴史や文化、伝統に親しみ、ふるさと長岡の魅力を広く国内外へ発信し交流を拡大するだけでなく、「新しい米百俵」と呼べるような未来志向の事業を実施することで、次なる百年のまちづくり、ひとづくりに活かすことを目指しました。

■ ロゴマーク



▶ ロゴマークに込めた思い

長岡開府から400年。

発展を遂げてきた越後長岡のまちのルーツを探り、新たなルーツを切り開く。

大好きな長岡のまちを、みんなで、次代につないでいきたい。

そんな思いを込めました。

▶ デザイン概要

まんなかの4つの「O」に「+」を加えて「米」という字を表現。

長岡藩風「常在戦場の精神」から生まれ、現在まで受け継がれてきた「米百俵の精神」や、米どころでもある長岡ならではのデザインとなっています。

■ 記念事業の全体構想

平成28年6月に「長岡開府400年記念事業実行委員会」を設立し、市民協働・官民連携の体制で、記念事業を検討。

開府400年を契機に、まちの歴史・文化・伝統を見つめ郷土への愛着と誇りを高めるとともに、ふるさと長岡の魅力を広く国内外に発信し交流を拡大することで、次代を担う子どもたちに次の100年に向けたバトンを手渡したいという想いで、事業(案)を策定しました。

「歴史、文化、伝統に親しむ」、「交流人口の拡大、一体感の醸成」、「未来への投資」を記念事業の3本柱に据え、具体的な事業を展開しました。

歴史、文化、 伝統に親しむ

開府400年を契機に、改めて長岡の歴史や文化、伝統を見つめ直し、子どもからお年寄りまで全ての世代が郷土への愛着と誇りを高める。



プライベート

米百俵まつり連携企画
長岡藩主牧野家ゆかりの伝統文化
地域をつなぐリレー講演会

長岡開府400年記念式典

日本文化体験イベント
(書道パフォーマンスや蹴鞠の披露、茶道・華道体験など)
記念講演会「戦国・近世初頭長岡の歴史的位置」
小和田 哲男静岡大学名誉教授
映像上映 長岡開府400年のあゆみ
子どもたちから未来へ向けてのメッセージ

長岡ロケなび10周年・

長岡開府400年記念イベント

映像で振り返る長岡開府400年記念事業
長岡開府400年記念 ながおか未来セッション
司馬遼太郎さんの「峠」の面白さ
長岡開府400年記念事業パネル展示
(越後長岡 ROOTS400、子ども達の描く夢
「メッセージトンネル」、「新しい米百俵事業」協賛者紹介ボードなど)

交流人口の拡大、 一体感醸成

ふるさと長岡の魅力を広く国内外に発信することで交流人口拡大を図る。また、開府400年を支所地域も含めた長岡全域で盛り上げる。



長岡の魅力を全国に発信

長岡開府400年記念花火
地域をつなぐリレー講演会
徳川の栄華—徳川家、日光東照宮、牧野家ゆかりの名品—
Bリーグ公式戦 開府400記念試合
開府400年記念 長岡市民リレー大茶会
長岡 米百俵フェス ～花火と食と音楽と～2018

全国規模のイベント誘致

北前船寄港地フォーラム in 長岡
日本PTA全国研究大会 新潟大会
全国都市問題会議

情報発信拠点の整備

「ながおか花火館(仮称)」の整備

未来への投資

長岡ならではの「新しい米百俵」として、未来志向の事業を実施し、これからの長岡を支える人材を育成する。



次代の長岡を支える人材の育成

米百俵の精神で、質の高い教育と教育環境の整備を進め、未来の長岡を背負って立つ人を育てる。

「新しい米百俵事業協賛金」を財源に、(公財)長岡市米百俵財団が主体となって事業を支援。

プログラミング体験教室

- ・日本のイノベーションを支える人材、次代の長岡を支える人材の育成

米百俵未来塾

- ・「人材育成のプラットフォーム」となる“学びの場”を提供

人づくり・産業振興を

総がかりで支える地方創生の拠点整備

米百俵プレイス(仮称)の整備